

## 第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

きっかけ

岡山県 倉敷市立真備東中学校 三学年

長江 真歩

「生命保険」と聞いて、私はあまりピンと来なかった。名前は聞いたことがあるし、テレビのCMでも時々見たことがあるけど、具体的な内容は全然知らない。だから、昔保険の仕事に携わったという祖母に話を聞いてみることにした。

「おばあちゃんは生命保険に入っとる？」

「ばあちゃんは昔から年齢のわりに内臓が強くて、生活習慣病が一つもないから、今は入ってないとよ。」

「今は……ってことは昔は入っとったん？」

「昔はもちろん入っとったよ。でも、子供達が独立して大きなお金がいらなくなったからやめたよ。でもやっぱり、じいちゃんが入院した時はすごく助かったよ。」

と、しみじみ話してくれた。

私の祖父はずっと昔、とても大きな交通事故で半年も入院した。その時は私の母がまだ子供の頃で、もちろん私は生まれていない。本当に大きな追突事故で、死んでいてもおかしくなかったらしい。その話を聞いた時、私は不安を感じた。中学三年生の私でも、交通事故にあうと莫大なお金がかかることはもちろん知っている。知っているからこそ、大きな不安を感じたのだ。私に「もしも」のことが起きた時、たくさんのお金が必要になるうえに、とても迷惑や心配をかけてしまうことになると思うとゾッとする。

「あの時は給付金に助けてもらったとよ。」

祖母の言葉でハッと我に返った。

「家から病院が遠かったから、生活費とか入院費以外にもお金がたくさん飛んでいってねえ。でも、入院費は保険会社から給付金をもらったからすごく助かった。」

と、続けて祖母が言った。

祖父の事故によって、祖母は保険の重要性が改めて分かり、これをきっかけに生命保険の会社で働くようになったという。今は会社をやめたけど、保険会社で働いたことは、自分にとつての社会勉強になり、大いに役に立った。そして何より保険の大切さや、相手の

## 第55回中学生作文コンクール

家庭に対する強い責任を感じ、とてもやりがいのある仕事だったと教えてくれた。

私も祖母の話聞いて、保険の大切さが分かった気がした。そんな気持ちと共に、生命保険について深く知ろうと思うことができた。これからは、普段何気なく見ていた生命保険のCMなども、一回は目に留めて見てみようと思った。この作文が、何も知らなかった私に生命保険を知るきっかけを与えてくれたのだ。